

# 平成27年度 第1回 緩和ケア勉強会のご報告

今年度の第1回緩和ケア勉強会は、4月16日に開催いたしました。出席人数は63名、うち、院内39名、院外24名でした。

今年度の年間テーマは「症例に学ぶ ～多施設・多職種で関わる緩和ケア～」です。第1回目の今回は「小腸転移によりイレウス状態にあった肺がん患者の事例に学ぶ」というテーマで、デスクカンファレンスを行いました。診断から治療期を担当した主治医、緩和ケア病棟で在宅療養へ移行するまでの支援をした看護師、看取りまでの在宅療養を支えた在宅医療機関のスタッフより、それぞれの立場からの患者・家族との関わりをお話していただきました。

今回はアンケートでの感想を紹介させていただきます。

## \*アンケート結果報告\*

- ・その人の想いに寄り添う難しさ、本人と妻の思いの違いをどうすり合わせていくか、大変難しく思いました。長期にわたる関わり合いで、スタッフの支えの大切さと重要性を学んだ。
- ・本人の意思をよく考えてあげ、在宅での生活ができていたと思います。妻の在宅で見たいという思い、妻の介護疲れのためのレスパイト入院などを利用し、本人、家族のためにより看取りができていたと思いました。
- ・それぞれの職種同士の連携と、多職種の連携、家族を支える人々全てが大切。
- ・緩和ケア病棟にレスパイト入院できる安心感も在宅療養を支えていると感じた。
- ・病院から在宅まで一つの症例を通じて医療連携の大切さを改めて感じた。入院中に痛みのコントロールがしっかりできたことが在宅で生活できる鍵だと思います。

## \*勉強会の様子\*



次回の講演会：6月11日（木） 18時～19時半

内容：「下顎歯肉癌・認知症患者の終末期」

～多職種カンファレンス後経口摂取を尊重し在宅療養へ移行した事例～

ご質問・ご意見ありがとうございました。今後もどしどしご意見をお寄せ下さい。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院

地域医療連携センター FAX：0572-22-7948 緩和ケア内科 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp